

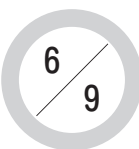
迫力の鬼みこしで登別地獄まつり半世紀をPR



YOSAKOIソーラン祭りに『鬼みこし』登場

6月9日(日)、札幌市で開催された『第22回YOSAKOIソーラン祭り』のお祭りパレードに『鬼みこし』が登場し、道内外から訪れた大勢の観客に、8月23日(金)から25日(日)まで開催される第50回登別地獄まつりをPRしました。

『鬼みこし』は、登別地獄まつりで、地元の若者が担いで登別温泉街のメインストリート・極楽通りを練り歩く『鬼みこし暴れねりこみ』に登場する重さ1トンのみこしで、この日は登別から約130人の担ぎ手が会場に駆け付けました。パレードには9団体が参加し、『鬼みこし』はパレードの先頭として、大通北コースの西5丁目をスタート。登別温泉の湯の守り神・湯鬼神(ゆきじん)などとともに、威勢の良い掛け声を上げながら、西7丁目までのコースを約20分間練り歩き、沿道に詰め掛けた観客に、登別地獄まつりの熱気を伝えていました。



日本の伝統文化を体験する一日

第13回わんぱくサムライ体験

5月25日(土)、郷土資料館で『第13回わんぱくサムライ体験』(市主催)が行われました。この催しは、子どもたちに武士の世界と和の心を知ってもらうために毎年開催されており、今年も多くの親子連れが、流鏝馬(やぶさめ)や煎餅作りなどを体験していました。

炭火の上で煎餅が焼き上がると、子どもたちは歓声を上げ、普段とは一味違う伝統文化体験を楽しみました。このほか、和太鼓演奏やさこいソーランの披露、姉妹都市の宮城県白石市の名物つーめんやくず湯の試食も行われました。



▲鉄製の型で煎餅を焼く参加者



## ソチ五輪出場を勝ち取ります

宮武祥子（みやたけししょうこ）選手シーズン終了報告

5月24日（金）、登別市出身でスノーボード（アルペン競技）の宮武祥子さんが、昨シーズンの活動を報告しました。

宮武さんは、2014年のソチ冬季オリンピック出場を目指し、昨年9月から半年間、スイスを拠点に練習に取り組み2月のイタリア大会では5位入賞、3月の国内大会では優勝するなど、活躍を続けています。「これまでの海外遠征の経験を生かし、オリンピック出場を勝ち取ります」と、宮武さんは力強く話してくれました。



▲市役所を訪れ、活動報告をする宮武さん

5/24



▲地区課題について話す町内会の代表者（奥）

## 身近な課題を聞き取ります

地区課題（要望）ヒアリング

6/3 ~ 6

6月3日（月）から6日（木）の4日間、市役所で地区課題（要望）ヒアリングが行われ、事前に課題を提出した町内会の代表が、各担当職員に要望を伝えました。

今回ヒアリングに参加したのは、94町内会のうち44町内会。「道路や排水施設の補修」、「横断歩道や速度規制標識の設置」など、身近な課題138件について、各担当職員と話し合いました。

提出された課題や要望には、7月に市の考え方や結果を回答する予定です。

## 『登夢（とむ）くん』 譲渡でより広く活用を

5/31

登別市観光PRキャラクター登夢くん寄贈

5月31日（金）、市役所で登別まちづくり㈱から市に、『登別市観光PRキャラクター登夢くん』が寄贈されました。

登夢くんは、同社が日本工学院北海道専門学校との協力を得て平成22年8月に開発。平成23年には登別市観光PRキャラクターに認定され、市の観光宣伝活動を担ってきました。

このたび、登別まちづくり㈱は、「登夢くんはまちおこしのために開発したので、今後は宣伝や商品開発のために、他社の方にも広く使ってほしい」と登夢くんの市への寄贈を決めました。

目録贈呈後は、市から感謝状が手渡されました。今後は、市が『登別市PRキャラクター』として登夢くんを管理し、希望する企業や団体などに貸し出すなどの活用を図ります。



▲目録を読み上げる登別まちづくり㈱代表取締役の仲川弘誓さん（左）、登夢くん（中央）、松橋副市長